

# 韓国の教育制度とその比較

## -財閥が及ぼす影響を考慮して-

今や日本で身近な存在となった韓国。そこで本論では韓国の教育制度に目を向け研究をした。韓国と言えば、世界的に見てもトップを争う学歴社会であるが、その厳しい学歴社会の裏には財閥が深く関係していた。

韓国経済は「サムスングループ」「現代グループ」「LGグループ」「SKグループ」の4大財閥だけでGDPの約半数を占めており、非常に偏りがある。その結果、これら財閥への就職を目指す学生が有名大学への進学を目指し、過酷な状況下での学習を強いられている。

そして、研究を進めていくと、健康被害や自殺者数の増加等、過度な学習による学生への弊害が多くあることが分かった。

これらの課題から日韓の教育制度をそれぞれ比較し、改善点を考察した。韓国では高校受験において内申点100%という受験制度を導入しており、実質中学1年生から受験勉強が始まる。一方、日本では内申点と当日点で合否が決まるため、一発逆転のチャンスがある。また、大学受験において韓国は大学数が学生数に対して非常に少なく有名大学に入学できる学生はほんの一握りである。一方、日本では、大学数も多く推薦も充実しているため容易に大学に入学することが出来る。

このような現状から、日韓共に社会状況と教育制度とのバランスが取れていないため、受験制度の見直しをすることで学生の適度な学習を促すことができるのではないかと考察した。

学習が学生の将来を奪うものではなく、将来に繋がるものになる社会を強く望んでいる。